

「超現実の世界に生きる」

～神さまの御心を理解するためには～

「また、信じる者を助ける神の力が、どれほど偉大であるかを知ることができますように。」エペソ人への手紙1章19節／「そして、神の愛がどれほど深いかを理解することができますように。さらに、あなたがたがキリストの無限の愛を知って、キリストの愛といのちに満たされますように。」3章18・19節〔リビングバイブル〕

私たちは現実世界に生きていながら、様々な世界に生きることができる存在です。

仕事や家庭や学業という現実の中に生きていますが、ふとしたことで別の世界に没頭できる時間があります。そして、その没頭する世界の中で達成感を味わい、心が強められることがあります。それが趣味であったり、娯楽であったり、人間関係であったりするわけですが、それらは現実世界に対しては「非現実」となりますので、「現実逃避」であると思われることもあります。確かにそういう部分もありますが、私たちにとっては本当に大切な部分です。

では私たちの「信仰生活」はどのようなのでしょうか？「現実逃避」なののでしょうか？逃げているのでしょうか？聖書が語っている世界は私たちにとってどういう意味をもっているのでしょうか？

リッチ・モリンズというクリスチャンミュージシャンが作った歌に「Awesome God(恐るべき神)」という歌がありますが、それは聖書に登場する私たちの偉大な神について歌っています。

「1. 衣をあげて立ち上がられる(恐るべき神)／稲妻の光 足台にして(恐るべき神)

アダムを追い出したその時から 救いの計画 動き出した

やがて この地に立たれる方 恐るべき神

(コーラス) 我らの神は 恐るべき神 知恵、力、愛の 恐るべき神

2. 星影もない暗闇の中(恐るべき神)／光に命じて地を照らされた(恐るべき神)

ソドムに注がれた怒りの炎 十字架に示された愛赦し

決して、忘れるな！このお方 恐るべき神 (コーラス) (訳：倉知契師)

聖書の世界をそのまま現実のこととして受け止めるならば、私たちの現実は確実に変わってきます。もし今自分の目の前で紅海が真っ二つに分かれたならば…。もし今、死んでしまったはずの主がよみがえって目の前に立っておられたとしたら…。

パウロはこのコリント人への第一の手紙2章で、神の偉大さは神ご自身の霊によらなければ悟ることができない。そして、私たち主を信じる者には、聖霊が与えられており、その聖霊様によるなら、神の国の奥義を悟ることができるかと語っています。しかし、私たちは自分自身の考えに捕われて、共におられる聖霊のお心を理解していないことが多いと感じます。そして、自分の考えられる範囲以内に神のお働きをとどめてしまうという結果になってしまいます。幼子のような信仰に立って、そのままの神の偉大さを体験していきたいと願います！